

寺町界隈

TERAMACHI-KAIWAI

わたしたちの町の、わたしたちの情報誌。10月号 ■発行/寺町のまちづくりを考える会事務局 ☎21-3461 ■通算10号

寺町は伝統の味が似合う街

今月は、この寺町で日本の伝統の食文化である“そば”と“うどん”を、私達のご先祖様の時代より今まで、まごころをこめて作り続けている松本そば店さんと更科さんをそば派・うどん派それぞれの代表としてご紹介します。



白濁天満宮
丹

献上そば

★松本そば店 後藤そば

松本そば店 松江市南寺町104 ☎21-2487

創業は江戸の首に遡る老舗で、売れ筋は何と言っても割子そば、かまあげそば、山かけそばの3品。おかみさん曰く、「そばは先人の残した素晴らしい食文化です。この伝統を守るために毎日頑張っています。」とのこと。
●営業時間/11:00~15:00 お休み/木曜日
●出前/ごめんなさい
●お値段/割子そば 600円 かまあげそば 500円 山かけそば 700円 etc...
※地方発送も受けてくれ、生そば、干そばが宅配便で送れます。

そば清 ●



更科 松江市寺町198 ☎21-2118

創業は昭和元年。うどん作りの歴史も古く、昭和3年に当時松江では余り知られていなかった薄口醤油を使った松江では初めての関西風饅頭を作ったことに始まる。ご主人曰く「きつねうどん、あんかけうどん、肉うどんの3品が特におすすめです。」とのこと。



●営業時間/11:00~21:00
●お休み/金曜日 ●出前/受け承ります
●お値段/きつねうどん 470円
あんかけうどん 670円
肉うどん 620円 etc...

※うどんのほか天井、ひれかつ弁当等も好評です。

連載
のいる風景
人 ③

歴史のワンダーランド

展墓のたのしみ

「にぎやかに死者もよるこぶ街づくり」
が眠っているのです。墓地などはあまり好んで人が行くところでもありませんが、街の歴史の予備知識をもって「展墓」をすれば寺町の墓地ほどおもしろいところはありません。冗談半分にいえば「墓地は歴史好きのワンダーランドだ」とでもなりましようか。せつかくの歴史の集積を敬して遠ざけるより上手に活用して「まちづくり」につなげる工夫がないかなあと思っています。寺町のまちづくりグループは自由闊達な楽しいまちづくりを目指しているようだから、こんなとんでもない提案もうまく形にしてくれそうな気がして期待しています。
冗談半分ついでに寺町再開発についてのキャッチフレーズをひとつ。

寺町は私にとって郷土史研究の楽しいオープンエンターテインメントです。
早朝の散歩やお墓参りのつれづれにフラーリと墓地をひとまわりすることがあります。松江のまちが出来ていらいの数え切れないほどの人々が眠っているのですから、歴史の本で見かけた人物のお墓に出会うことも、まれではありません。偶然みつけたお墓の前で「お前さん、こげなここにござっしやったかね」とまるで旧知にでもあったようでした。
歴史に名を残した人々の墓所をたずねてその事績をしるのぶことを「展墓」とよんで、江戸時代から良い趣味のひとつに数えられており「掃苔趣味」などともいいます。苔をはらって戒名や没年を確かめるしぐさからついたのでしょう。寺町のまちづくりの一つの切り口としてお墓の存在が無視できないとおもいますのでそのお話しをしましょう。
さすが人をあらかじめ文献にあたって調べておくと良くわかり、

松江市文化財審議委員

乾 隆 明

家の墓参をしなくては「おさまらぬ」わけでは、東西の駅通りと南北の寺町通りの交差点に八角堂がヌツとのぞいているのが常教寺。ここが新當流撃剣師範として松江藩士に剣術稽古をつけた大石親子の墓所。弟子たちが建立した墓碑には漢文でびっしりと事績がうたいあげられており、その漢文の解説がテーマになるという具合に、お墓しらべと文献調査がリンクして、愉しみははてしなく広がります。
ちなみに常教寺墓地には代々白濁の町年寄役を勤めた町人頭・佐藤家累代。不昧公に愛せられた指し物大工名人・小林如泥。幕末の江戸市中で雲州の刀鍛冶として高い評価を得た鶴司高橋長信などの墓があります。
近所のお寺には藩制改革に取り組んだ藩士や江戸相撲の花形力士、名医とうたわれた藩医や謹厳実直な儒学者から遊野郎の心を溶かした遊女までありとあらゆる人々

旅の積み立てプラン「たびたび」
いろんな人のいろんな旅の夢をカタチにします。

1年後の4万円で、 1年後の80万円で、 3年後の30万円で、

奥様どうしの
楽しい旅行

思い出の
ハネムーン

南の島へ
バカンス

「お得」「便利」「実現」の3つの特長で、あなたの旅の夢をかなえます。

ただいま「いい宿いい旅」キャンペーン
ご予約いただいた方に抽選でステキな賞品が当たります

JTB 松江支店

〒690 松江市朝日町494-1

●海外旅行
0852(23)2024
●国内旅行
0852(23)2020
●営業時間
9:30~17:30 (月~金)
9:30~12:30 (土)
(日祝休)

■お店紹介

提案 します!!

またまちづくり

第四回

サンキチの
(官・民・専)
まちづくり

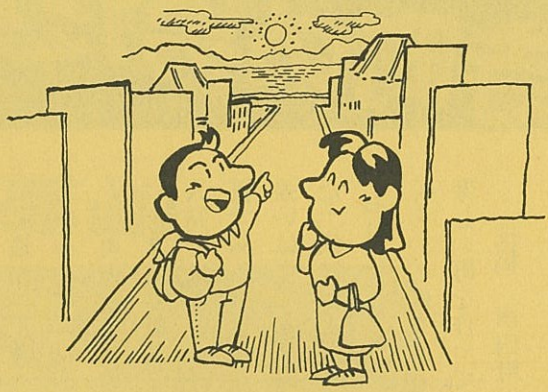
昔から、官(政治)、民(民間)、専(専門家)の三人の気狂い(?)が集まると、困難も成し遂げられるそうです。シリーズで皆さんのご意見を連載します。

民 本間 恵美子

県立八雲立つ風土記の丘

「まちづくり」を考え、推進していくためには、当たり前前のことではあるが、さまざまな条件や問題をクリヤーする必要がある。でも一番大事なことは、「我が町、おらが町」を心底愛する「のぼせもん」が存在することだと常々私は思っている。そして恐らくこの点に於いて最高の条件を備えているのが寺町界隈である。住んでいる人達の心意気は誠にすばらしい。「寺町界隈」などというとてもセンスの良い住民参加の情報誌を毎月発行、かと思うと「街なみデザイン計画策定調査報告書」を出したり、本格的である。そんな意欲に、私自身が寺町界隈の住民でないことを残念に思っていたら、原稿依頼がきてしまった。

駅通りから寺町にかけては、昔も今も松江城下の入口として松江の顔である。最近各地で街が近代的にきれいになっていく。でもひとつ間違っていると、全国どこでも同じ街になってしまうような気がする。その意味で、以前感激したのはニュ



さびしく思っていたところでありました。幸に「寺町のまちづくりを考える会」の皆様は自分達の地域をどうしたらよいかと考えると同時に、市のメインストリートであるという責任を感じながら取り組まれ、五月には国の「街並み環境整備事業」に認定され、本年度は六百万円の補助金も得られたところであります。

国際文化観光都市「水の都・松江」、松江駅を下り立った人達は、松江はどんな街だろうとサンセット大通りを胸をワクワクさせながら、美しい宍道湖をめざし、また、平成十年オーブン予定の素晴らしい県立美術館をめざして歩いていくことでしょうか。そうした時、この駅通りは緑の沢山植わった、ゆったりとした風格のある街であってほしいと思います。またこの一角には寺町という名にふさわしく今でも、多くのお寺があります。童

ーヨークとワシントン。わずか汽車で二時間五十分の距離なのに全く異なる街の風情を保っている。一方は超高層ビル群、もう一方は英国風の静かな町。それぞれの街がプライドをもっているのだと感じた。寺町をシャレた若者向きの街にするのなら、うんとシャレて東京の青山通りを追い越そう。土臭さの残る落ち着いた雰囲気や大事にするなら、夏の夕方の前に水まきがしてある、風鈴の音がしている、街路の草はきれいに取ってある、住んでいる人の心使いの行き届いた街がいい。散策路を歩いて歴史のあるお寺を巡るのもいい。いずれにしても誰かと一緒に(夫とは限らないが)ちょっと腰をおろして語り合える広場もいい。街は人が住んでいてこそ機能する。地元の人材、特殊性をうまく生かして新と旧が調和した印象的な街であって欲しい。商店と住宅と寺院と、住民と市民と観光客とをどんな三角形にするかだと思ふ。どれか一つ欠けても面にはならないで線になってしまう。そして、いくら美しい街になってもそこに住む人がいなければ映画のセットと同じことである。先般、ベンガラで有名な岡山県吹屋を訪れた。メインストリートが、栄えた当時の町並みに復元

話の「夕やけ、小やけ」の歌のごとく、寺町を生かした古風で落ち着きのある景観、街づくりも大切であると思ふ。現在、駅前には、市ではテルサ(勤労者総合福祉センター)の建設構想があり、それに合わせ「まちづくりを考える会」では、商店街の再開発事業の核とするもの、現在のやよいデパートの建物とその向かいにある駐車場を利用して、公営の場外馬券、舟券売場、ゲームセンターなどを備えたアミューズメントプラザ(娯楽複合施設)を建設する構想があります。アミューズメントプラザは広範囲からの集客能力を持ち、大人から子供まで楽しめるゾーンをという考えのようです。この構想については大きく市全体の問題でありますので寺町だけで結論を出すには、広く市民の皆さんの意見を聞く必要があると思ふ。駅通りの拡幅計画に関連して、この寺町が再生し、この地域はもとより、松江市の魅力ある街づくりに大いにプラスになるものであるようお願いしております。

「京都」・「奈良」と肩を並べる「国際文化観光都市・松江」そんなイメージを描いているのは、松江に住む人、共通の思いなのではないか?それとも一部の人の幻想なのだろうか?いずれにしても「松江」が都市としての機能を備えていないという不満は共通の思いではないでしょうか。

専 石原 隆司

建築家

なるほど「県都、松江」にはいわず箱物と呼ばれる公共建築物が数多く点在しています。しかし一つ一つを見れば、それなりに立派な建物もあくまで点であり、線にもましてや面にもなりえていない。いや空間としての街を上げようとしていないのではないのでしょうか。もつとも多目的という名の無目的な公共建築物には無理な注文がもしませんが…。次に街並みについてはどうでしょうか。文化の薫る「城下町・松江」は幸運にも戦災にも遭わず、古い家屋がおちついたたずまいを見せている。どちらかというと低層の和風木造住宅が多い。しかし近年になり個性の時代へと移るにつれ、「私はアーリーアメリカン」とか「私はスペイン風で」とかかなり自己主張をする建物が増えてきました。それ自体は決して悪い建物ではないのですが、街並として考えた場合、都市としてのイメージと違いあまりにも野放図な景色になりすぎてはいないでしょうか。私は決して松江の街を「松江江戸村」にしようと考えているわけではありません。それどころか開発すべき所は開発し、残すべき所は残し文化と文明が共存する街にすべきだと思ふ。文化的景観があれば文明的景観も必要だと考えています。公共建築でも個人住宅でも個性的な魅力のある建物であるべきだと思ふ。文化の伝統は「心」の継承であって形の模倣であってはならないと考えているだけなのです。「伝統が持っていた心を表現するのには、木・土・石でなければ出来ないわけでは

してあり、近くにはベンガラ工場もある。いいなあと思っただけで何か変、その人の住んでいない家が点々とある。だ



みようととは思わないだろう。ここだけでなく、そんな街が全国にたくさんある。もちろん寺町界隈とは立地条件がそれぞれ異なるけれど…。まちづくりには人一倍関心のある私だけれど、いつも欲張り過ぎて自分の考えられていることがわからなくなってしまっている。向にある。そして無責任に、未来に向けて、住民の皆様の試行錯誤の中から生まれてくる新しい寺町界隈を、とても楽しみに待っている私なのです。

官 落合 美恵子

市議員

松江の玄関口である松江駅から宍道湖に向けての街並みを、県道拡幅計画に関連して、どんな風にしようかと、地域の問題として真剣に考えられ、「寺町のまちづくりを考える会」が昨年三月に会を結成され、積極的に取組まれていることは本場にすばらしいことであると思ふ。

松江で生まれ、松江で育った私は、かつてこの地域が松江の代表的な繁華街でありながら、どんどんさびれていく姿を

「松江の街を現在のように魅力のない街にしたのは、やはり建築に携わる我々の責任が大きいと考えます。松江には一級建築士は多数いても、建築家はいなかったというのでしょうか。今からでも遅くはないのです。政治家もオーナーも建築家も社会共通資本になるものをどこまで造り残せるかということを考えてねばならないのです。環境に適応し、敷地に敬意を払い、そして次の世代でも胸をはって「国際文化観光都市・松江」と言える街を作りたいと思ふ。



